

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

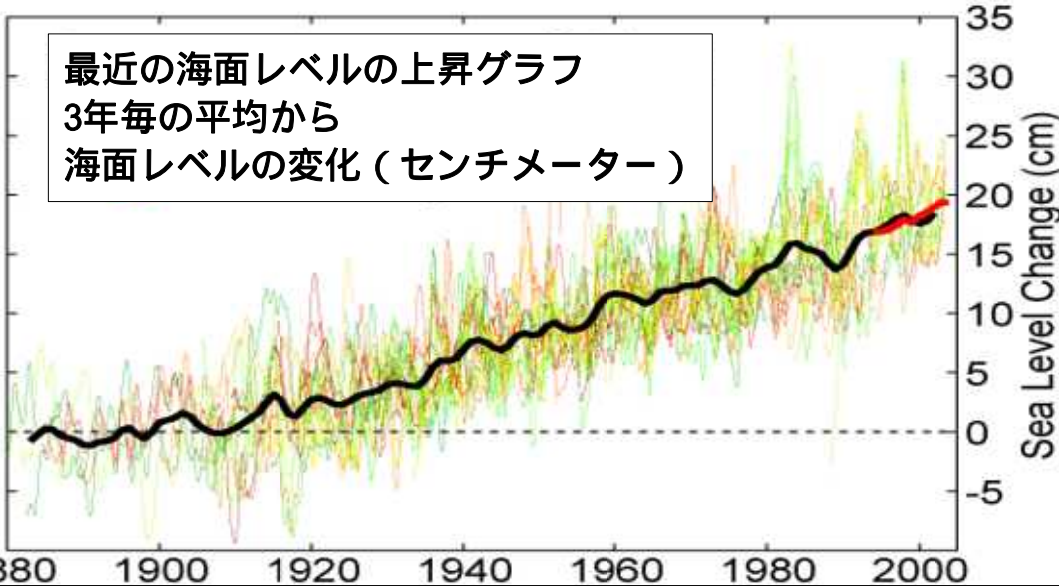
2007年11月1日

50号

ノーベル平和賞、ゴア前米副大統領らに

ノルウェーのノーベル賞委員会は12日、2007年のノーベル平和賞をアル・ゴア前米副大統領（59）と、各国の科学者らで構成する国連組織の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」に授与すると発表した。「人類が引き起こした気候変動に関する知識の普及に尽力した」ことが授賞理由

最近の海面レベルの上昇グラフ
3年毎の平均から
海面レベルの変化（センチメートル）



IPCC報告書：地球温暖化の危険
性明言 2007/02/15

「大気や海洋の平均温度の上昇、

拡大する雪氷の融解、平均海面
水位の上昇など観測結果から明
らかなように、気候システムの
温暖化は疑いもない」。気候変
動に関する国連の政府間パネル
（IPCC）の第4次評価報告書

『気候変動二〇〇七年：自然
科学的根拠』は、一七五〇年
来の人間の経済活動による温
室効果ガスの増加が地球温暖
化をもたらしたと明言した。

報告書は、二酸化炭素濃度が
近年急増し、この五〇年間の
温暖化の傾向は過去百年のほ
ぼ二倍と指摘、二十一世紀末
には地球の気温は六度上昇す
ると警告した。報告書はさら
に、猛暑や暖冬、干ばつ、氷
河の融解、海面の上昇、浸水、
生物多様性の破壊など、温暖
化により異常気象が増大し、
人間の存在の基盤そのものが
崩壊されると警告している。

例：ツバル諸島

ツバル諸島とは、南太平洋に
浮かぶサンゴ礁の国です。人
口約一万千人、九つの島から
なるツバル諸島の面積は計二

キロメートル。最も高いところで
も、わずか海拔（水面から）四m
です。

高潮になると、海水が島の内部ま
できて、家の並ぶ海岸部が浸食さ
れ、地下水の塩水化が生活と農業
に打撃を与えています。

ツバル政府の危機感は強く、大量
移民を本気で考えています。

「海面上昇は心配で、数十年後に
我が国がどんな状態になっている
かわからない。

離島は住民一人ひとりの判断にな
るが、準備をしておくのが政府の
役割だ」といっています。

例二

クイーンズ大学（カナダ）のスコッ
ト・ラムール氏によれば、カナダ
北西部の北極圏にあるメルヴィル
島の様相はこの夏一変してしまっ
たという。通常、メルヴィル島は、
一年中氷で覆われている。しかし、
この夏、島の南部には氷がなくなっ
た。島北西部のモールド湾では、
七月の平均気温が四〜五度だった
ものが今年の夏には十五〜二十二
度を記録した。この高温は、ツン
ドラの永久凍土を深さ一m以上も
溶かした。水や堆積物が付近の海
や川、湖に流れ出して、地域の生
態系に悪影響を及ぼしている。

レダからの報告

(伊達農業指導員 十月十日記)

レダは春から初夏の時期でしょうか。木々にも新芽が目立ち、ジャカラランダ、チバトなども美しい花を見せてきます。

農業の方は、雨が本格化する前に、とにかく植えられる場所には植えようということで、ジャトロファは第二農場のサトウキビ、タルタゴ跡に二百三十本の二世の苗を植え、旧第1水田後の一部に五十五本のブラジル産の苗を植えました。そしてニームは、第四農場の西側アランプレ沿いに二十一本、第二農場の植樹園側のアランプレ沿いに、植え付けの終わっていない場所や、枯れたところに二十九本、ニーム畑に四本、その南奥の道路側に六本ほど植え、合計六十本。第3農場の道路側のアランプレ沿いに大山先生のグループが今までに百三十本植えています。

ですから近く、ニームの数は二倍になります。ジャトロファの数は、第三農場のアランプレ沿いのものを植え替え用に使いましたから、まだ三百本程しか増えていません。しかし、これから十ヘクタールの場所に植え付けが始まれば一気に増加します。



ジャトロファの苗床

現在そのポット植えの準備中で、三百個ほど出ています。使える苗は百五十本ほどありますが、絶対量が足りないので急ぐ必要があります。

三百個のモリンガのポットからもどんだん芽が出ています。これは一週間ぐらいから芽が出てくるようです。一ヶ月半ぐらいで植え付けができるかと思えます。それらは、今のところ羊小屋の後ろに新しく耕された場所と、旧水田の所に植える予定です。通気性のある良い土地を必要としていますので、養分の十分ある場所を選ぶ必要があります。本格的な定植の前に、ソルゴとかひまわりなどを緑肥として植えておいて、土の質を少しでもよくする予定です。

中田戦略としては、レダはジャトロファ、タルタゴ、モリンガ、ニームの四本立でゆき、相互関連させながら独自の栽培方法を確立するということです。今後大規模な栽培となる為の準備として、いかに労費をかけないで、単純な作業で栽培できるかという方法を見つけていかななくてはなりません。レダの特徴としては無尽蔵に流れて来るアグアツペを使うこと、比較的水を使いやすい事ですが、それも限度があると思えます。自然な状態でジャトロファを栽培してどれぐらいの収穫を見込めるのか見極める必要があります。水田に植えたブラジル産のジャトロファはこれから水をあげないで、自然な状態でどれくらい育つか実験観察する予定です。



ソルゴ(緑肥)



モリンガの成木



今年のマンゴの実



土壌改良する上山氏と紅屋氏



ジャトロファの植え付け

「入門編地球環境クイズ」連載一

地球環境問題を学び、希望の未来を作ろう！

今まで「パンタナール通信」は、何回となく地球環境問題を学ぶ為の基礎的資料を提供して来ました。近年の地球全体を覆う異常気象は、遠いどこかの話として無関心を装えない程、今年の記録破りの猛暑続きを始め、共通にある不安感「地球はこれからどうなるのだろうか？」を体験してきています。今や地球環境問題は、特定の学者達やボランティア団体が叫ぶだけでなく、茶の間の話題になる程に身近に取り上げられてきました。更に地球環境問題を分かり易く講演し、「現代人はどうあるべきか」を世界に警鐘乱打して来たアル・ゴア氏（「パンタナール通信」44号参照）が、ノーベル平和賞を受賞すると発表され、一段と世の関心が高まっています。

最早避けて通れない地球全体の共通課題として、それは膨大な公害を出しながらも先進国の責任だと責任回避してきた中国も、首都が公害の為、このままでは北京オリンピックが危ぶまれ始めるといふ現実に向直面し、対応せざるを得なくなり、強大国と言われるアメリカでさえ、再三の強烈なハリケーンに襲われ大災害となった時、環境問題を決議した京都議定書を避けて自国利益のみを追求した国家エゴは許されない非常事態として認識され、ブッシュ大統領も重

い腰を上げて国際協力に取り組まざるを得なくなりました。当会は、この地球環境問題を更に深く学び合い、より多くの人々に呼びかけて、現世の私達だけでなく、これから生まれて来る全ての人々にも、絶望を与えないでなく、希望を持つて未来の地球の恒久平和を造り出して行けるよう日々心がけて取り組んで行きたいと思えます。

その為の第一歩として、これから連載で「入門編地球環境クイズ」を掲載して、少しでも学習が促進出来るお手伝いをして行きたいと思えます。クイズは名前の如く入門編です。勿論既に高度な段階を学んでおられる方には参考になりませんが、その場合はより多くの人々に関心を持っていただくツールとしてご利用してください。今回は、まず軽く準備運動として、一つだけ出題してみますので、試してみてください。

問題一．次の文の数字部分に適正な単語を入れてください。

地球温暖化とは
1 表面の 2
や海洋の 3 が
長期的に見て上昇
する現象である。

答え：1．地球

2．大気、

3．平均温度

飯野貞夫事務総長



アマゾンの森林破壊



南北米会員の中畔氏が九月末にアフリカ大陸、マリで、バイオディーゼル製造の為にジャトロファ栽培を研究している研究所を訪問した。予想以上にジャトロファ栽培が進んでおり、地域社会の産業の為、既に搾油機を導入し、ジャトロファの種から油を採取し、車のエンジンに付属品を付けて、採取した油で車の燃料としていたとの報告があった。



中畔氏、研究所の前で



バイオ燃料に対する取り組みと問題点

インド洋に面した大都市ダーバン（南ア共和国）で開催された『First Annual Africa Biofuels Conference & Expo』で、ホザンジーク・エネルギー省のSalvador Namburete氏は「地球温暖化が世界的規模の問題となりつつある現在、再生可能でクリーンなエネルギーの普及が急がれている」と述べた。

EU（欧州連合）は二〇二〇年までに交通・輸送手段や企業によるバイオ燃料使用率を十％にすると決め、特に農業の分野ではアフリカを中心としたLDCs（後発開発途上国）からの輸入品で二十％を使用することを発表した。

LDCsの中には、バイオ燃料用穀物を生産するのに適した豊富な耕作地を持ち、穀物から燃料に生成する技術を提供できる海外の投資家に大きな期待を寄せている国もある。しかし、バイオ燃料の開発をめぐるにはインフラ整備の不足など多くの問題も生じている。

世界最大のエタノール輸出国ブラジルでさえインフラの整備に向けた取り組みを行っている。国有石油会社大手のペトロブラス（Petrobras）社は現在、国内の数箇所でエタノールを輸送するためのパイプライン建設を進めている。

インフラ以外の課題として、Namburete氏は土地の割り当てや、バイオ燃料生産と食料生産とのバランスなどにも言及した。

特にアフリカでは「食料VS燃料」の議論は重要である。厳しい気候条件、不安定な国内情勢、搾取される土地といった問題が、多くの国民に構造的な食料危機をもたらしているためだ。

ダーバンを拠点に置く『Verus Company Group』のCEO Justin Vermaak氏は「重要な基礎食糧である農作物（トウモロコシや砂糖）を燃料として利用することは、ジンバブエといった貧困国の食料不足に一層拍車をかけることになる」と語った。バイオ燃料開発をめぐる課題について報告する。（ダーバンPSのメーガン・サップより、バイオ燃料開発をめぐる課題について報告したPS記事。）

「ワールドウォッチ研究所」では、食用の作物をバイオ燃料に使うことをやめて、農場や森林から出た廃棄物を使ったバイオマス燃料を促進することを推奨している。

地球政策研究所のレスター・ブラウン所長は、「世界の最貧困層二十億人の多くは、収入の半分以上を食料に費やしている。穀物価格が高騰することは彼らの生活を脅かす」と語る。世界の砂糖生産のうち十％がバイオ燃料用として使われているに過ぎないが、それでも砂糖価格は急騰している。

ジャトロファの実は食料にはならず、その種からバイオ燃料を作ることを目的にしており、期待されている。

南北米福地開発協会 8周年を記念し、祝賀会を持ちました。（大山街道ふるさと館 2階にて）



南北米福地開発協会 事務局

〒二二一三〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区

溝口二一十一番十五
岩崎ビル四F

電話 〇四四一八二九一二八二一

Fax 八二九一二八二〇

会費納入 郵便口座 〇一七七六八〇四七一

E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ

http://www.asd-nsa.jp

代表 柴沼邦彦